

ロタウイルス胃腸炎を 予防するワクチンについて

看護師 岸 ひろみ

ロタウイルス胃腸炎は、感染力が強く重症化しやすい病気です。小さな赤ちゃんを胃腸炎から守るために、WHO(世界保健機関)などではワクチン接種を推奨しています。

ロタウイルス胃腸炎とは

- ほとんどの乳幼児がかかる胃腸炎で「ロタウイルス」に感染することで起こります。
- 突然の激しいおう吐から始まることが多く、白っぽく米のとぎ汁のような下痢便が何回も出ます。激しい下痢やおう吐によって脱水やけいれんを起こしやすく、脳炎や脳症をおこすこともあり、もっとも重症化しやすい乳幼児の胃腸炎とされています。



入院治療が必要になるほど重症化しやすいのは？

- 生後3ヵ月以降に初めて感染したときに、症状が強くてです。そのため、入院による治療が必要になることがあります。
- ロタウイルス胃腸炎で入院が必要になるのは、生後6ヵ月～2歳までの乳幼児が多いと言われています。

ロタウイルス胃腸炎予防ワクチンとは？

- 口から飲むタイプの生ワクチンです。
- 接種対象の赤ちゃんは、生後6週～24週までです。4週間の間隔をあけて2回の接種になります。生後25週以降は接種することができません。
- ワクチンを接種すると、ロタウイルスによる胃腸炎を防いだり、症状を軽くしたり、点滴や入院が必要になるほどの重症化を抑える効果があるため、脳炎などの重い合併症を防ぐことができます。

小さな赤ちゃんを感染症から守るために、ワクチン接種はとても有効な手段です。ママからの免疫がなくなる前に、そして病気にかかってしまう前に、タイミングを逃さず接種することが大切です。分からないことや詳しく知りたいことなどありましたら、いつでも気軽にご相談下さい。